

国の債務、どうやって返す

開倫塾

塾長 林明夫

1. 第二次世界大戦後の日本のように国が勢いを増している時に、返せる範囲で国が借金をして、国民の生活を便利にしたり、経済を活性化させるために社会基盤を整備したりすることは大切なことです。
2. 日本が勢いづいていた 1964 年の東京オリンピックの時に、日本が世界銀行からお金を借りて東海道新幹線や首都圏の高速道路を整備したのは、そのよい例です。
3. しかし、税金などからの収入が減りつつある時に、選挙で当選したいからと言って、国民がよろこびそうなことをするために国が債務危機に陥るほどの返せもしない大きな借金を重ねるのは大問題です。
4. あれもこれもやるのではなく、今やるべきことはこれだと一つ決め、国民の心を一つにして実行することが大事です。
5. 私は、外国との交流をもっと盛んにするために、学生だけでなく、すべての国民の英語によるコミュニケーション力を向上させ、英語を第二公用語にすることを提案したい。(1990 年代に経済危機に陥ったフィンランドが行ったのは、全国民への英語と IT 教育、それに特定地域の経済振興でした。)返し切れないほどの借金を抱える日本が、低迷する経済の中でこれから東日本復興を果たすには、製造業だけでなく農業もサービス業も含め全産業が外国に打って出る以外にない。外国の元気な方に日本で大活躍して頂く以外にない。そのためには、世界の共通語である英語を全国民が身につけるしかないと考えます。
6. 民間でやれる仕事は民間に任せたり、民間の資金を使って公共の仕事をするなどして、効率よく仕事をするしくみをつくり借金を減らすのも、一つの方法です。
7. 家庭にいる女性が働ける機会をもっともつとつくる。そのために女性が働ける環境を整備することも大事。また、いつまでも若々しく生きるために、60 歳すぎても生涯現役、85 歳すぎても働くことのできる社会をつくること。この二つが、人口減少で働く人が減る中で、返せないほどの大きな借金を抱えてしまった日本を国家破綻させないためには大事です。
8. あきらめたらおしまいです。皆で心を合わせてがんばるしかありません。

以上